

(4) (仮称) 内丸プランの策定に向けた方向性について

1 プランの目標

2 一体的整備のメリット

プランの目標とは

- (仮称) 内丸プランは、内丸地区将来ビジョンにて掲げられた地区のあるべき姿を都市計画によって具体化するための方針・方策を提示するもの。
- そのためプランの目標は、内丸地区将来ビジョンに照らして**実現すべき目標と内丸地区の現状を踏まえて解決すべき課題**として設定する。

内丸地区将来ビジョンにおける「あるべき姿」

- 県都の核として社会経済を牽引するまち内丸
- 城下の風格と都心空間が調和するまち内丸
- 英知が集い未来を創造するまち内丸

あるべき姿に照らした目標



(仮称) 内丸プランの目標



現状を踏まえて解決すべき課題

内丸地区における解決すべき課題

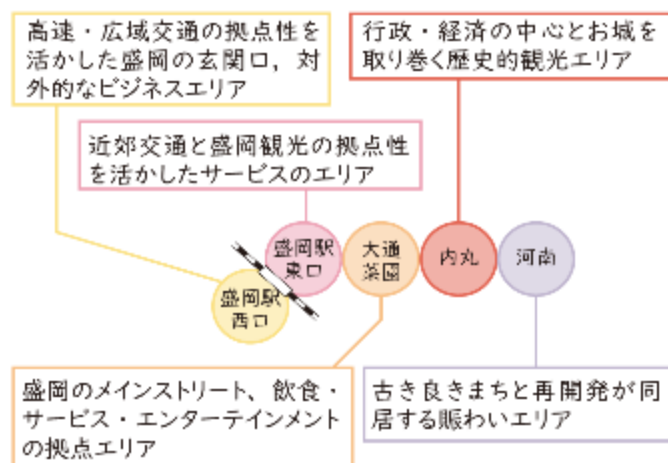
- 来街者数・人の流れの減少
- 災害リスク
- 歴史資源の保全
- 就業者の業種の偏り

将来の各地区の特性

- 内丸地区は現在、行政・経済の中心であり、歴史的観光エリアである。
- 今後は、それに加え、多様な要素と人が集まるハイブリッドエリアとなっていく。

将来の各地区の特性

現在の地区の特性 (内丸地区将来ビジョンより)



岩手圏域の文化・教育の核

- 市内及び県内、東北新幹線沿線地域から人が集う、文教の香りのするエリア

盛岡・岩手のゲートウェイ

- 県をまたいだ広域圏でみた盛岡市のゲートウェイ
- 観光客が集い、市外からの来街者の消費の核となるエリア

多様な要素と人が集まる ハイブリッドエリア

- 官公庁・業務ゾーン=昼間人口確保／消費者供給
- 櫻山エリア、盛岡城跡公園、中津川等からなる従来からの「盛岡らしさ」を感じるエリア
- 多様な人が集うことで生まれる新しい「盛岡らしさ」の発信地

流行りを感じる繁華街

- 大通り・菜園通り・映画館通りを中心として、流行りを感じることでできる商業地・飲食店街
- 市内の消費活動が盛んなエリア

オフィスが集積する業務地

- 中央通り沿いには多数のオフィスが集まる業務地=昼間人口確保／消費者供給

レトロでモダン、日常的な商業地

- 歴史の深さやユニークな商店・飲食店が集まる洗練されたエリア
- 日常生活を支える商業地による生活感を感じられる
- 古くから継承されるの「盛岡らしさ」を感じるエリア

内丸地区将来ビジョンからの展開【重視すべき視点】

■重視すべき視点

①社会経済活動の中心的役割の維持

労働力人口が減少し、経済活動の減退や税収の減少が懸念される中であっても、その影響を最小限にとどめるためには、今後も国際社会の中で全世界に目を向けながら盛岡市や岩手県の社会経済活動を牽引する中心的役割を担う必要がある。

②交流人口の維持・拡大

少子高齢化や人口減少などを背景に都市間競争が激しくなっている。内丸地区の歴史的観光資源は盛岡市の大きな強みとなるものであり、観光や出張などによる交流人口を維持・拡大し、飲食や買い物等の消費を更に喚起する視点が重要である。

土地利用、機能導入で念頭に置くべき事項

③新たな価値の創出

盛岡市が目指す「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりにおいて、内丸地区は医療・福祉・商業等の都市機能を維持・誘導し、集約を図る中心拠点に位置づけられている。経済活動の減退が懸念される中、内丸地区が今後も地域の活力を維持していくためには、機能集積の利点を最大限に活かした新たな価値の創出を目指す視点が必要となる。

④頻発する自然災害への対応

大雨による河川の氾濫や土砂災害、地震などの自然災害が発生した際、自治体の庁舎が機能を喪失し、住民の避難や災害対応などに混乱を来す事例が全国的に見受けられる。このような災害の発生時においても内丸地区が災害対応を確実に遂行し、防災・減災機能を発揮するためには、ハード、ソフトの両面において災害への高い対応力を備えている必要がある。

⑤ ICT（情報通信技術）の活用

⑥SDGsの実現

⑦ポストコロナに対応した地方創生

建物等の性能やソフト面で念頭に置くべき事項

③内丸地区将来ビジョンからの展開【重視すべき視点】

■重視すべき視点

①社会経済活動の中心的役割の維持

労働力人口が減少し、経済活動の減退や税収の減少が懸念される中であっても、その影響を最小限にとどめるためには、今後も国際社会の中で全世界に目を向けながら**盛岡市や岩手県の社会経済活動を牽引する中心的役割**を担う必要がある。

②交流人口の維持・拡大

少子高齢化や人口減少などを背景に都市間競争が激しくなっている。内丸地区の歴史的観光資源は盛岡市の大きな強みとなるものであり、観光や出張などによる**交流人口を維持・拡大し、飲食や買い物等の消費を更に喚起する**視点が重要である。

県・市の中心地

交流人口の集積

③新たな価値の創出

盛岡市が目指す「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりにおいて、内丸地区は医療・福祉・商業等の都市機能を維持・誘導し、集約を図る中心拠点に位置づけられている。経済活動の減退が懸念される中、内丸地区が今後も地域の活力を維持していくためには、**機能集積の利点を最大限に活かした新たな価値の創出**を目指す視点が必要となる。

④頻発する自然災害への対応

大雨による河川の氾濫や土砂災害、地震などの自然災害が発生した際、自治体の庁舎が機能を喪失し、住民の避難や災害対応などに混乱を来す事例が全国的に見受けられる。このような災害の発生時においても内丸地区が災害対応を確実に遂行し、防災・減災機能を発揮するためには、**ハード、ソフトの両面において災害への高い対応力**を備えている必要がある。

価値創出の場

防災拠点

内丸地区将来ビジョンからの展開【あるべき姿】

■あるべき姿と現状を踏まえた課題から導かれる目標（案）

○県都の核として社会経済を牽引するまち内丸

これまでに築かれた都市機能の集積が維持されることに加え、ICTの進展やリモートワークの普及などを背景にした多様な機能集積が進み、多くの人が地区内で就業するとともに、東北への誘致を目指すILCとの連携も見据えながら、盛岡・岩手に育まれた価値や魅力が内丸地区から世界に向けて発信されることによって、内丸地区から全県、東北にわたる広域に相乗的な経済効果を発揮し続けることが期待される。

更に、内丸地区には災害対応の中心拠点となる機関が集中していることから、災害発生時にも電気や通信などの機能を損なうことなく、市民や県民の生命や財産を守るための業務を持続できる、強靱なインフラが地区一帯に整備されることが望まれる。

■目標（案）

大通・菜園、河南等周辺に
経済効果を発揮する
昼間人口・交流人口の集積地

交流人口の集積

課題

- 地区内を移動する人の減少
- 岩手医科大学の移転による来街者の減少

■目標（案）

浸水が想定される
中心市街地における
避難や業務継続支援の拠点

防災拠点

課題

- 地区の大半が浸水想定区域
- 一部街区は河岸浸食のリスクがある

内丸地区将来ビジョンからの展開【あるべき姿】

■あるべき姿と現状を踏まえた課題から導かれる目標

○城下の風格と都心空間が調和するまち内丸

内丸地区には盛岡城跡公園や櫻山神社を始め、城下町としての歴史に育まれた観光資源が豊富であることから、個々の魅力が一層向上し、城跡や中津川と調和した景観や、個性的な店舗の集合が醸し出す界隈性も活かした一体的な取組により、エリア内の回遊性が向上し、**多様な要素が織りなす盛岡ならではの魅力として国内外から多くの人を惹きつけることで、市内はもとより県内の観光・交流拠点の活性化に波及効果をもたらす**ことが期待される。

また、地区内の観光資源の活用と併せ、将来の超高齢社会やインバウンドの拡大も見据えた公共交通網や都市インフラの整備により、**移動しやすく滞在したくなる空間が創出される**ことが望まれる。

■目標（案）

盛岡らしい多様な要素を
移動しながら体験できるまち
➡従来の「盛岡らしさ」の強化

県・市の中心地

課題

- 災害リスクの要因である中津川が「盛岡らしさ」に寄与
- 地区内に立地する歴史資源の保全

内丸地区将来ビジョンからの展開【あるべき姿】

■あるべき姿と現状を踏まえた課題から導かれる目標

○英知が集い未来を創造するまち内丸

従前からある機能の維持・強化に加え、行政機関や医療機関、IT企業、高等教育機関などが一体となり、医療・福祉の質の向上や脱炭素技術の開発など、様々な地域課題の解決とSDGsの実現に貢献する新たな商品・サービスの創造や人材育成に取り組むことで、内丸地区の強みを更に伸ばすとともに、県内、国内にとどまらず海外との提携も視野に、時代の変化に対応した新たな役割を担いながら、**収益や人材の好循環を生み、まちに活力を与え続けること**が期待される。

■目標（案）

人の多様性が生まれ、
新たな価値が
創出・発信されるまち
➡新しい「盛岡らしさ」の創出

価値創出の場

課題

●就業者数が多いものの、職種に偏りがある

プランの目標設定

■プランで実現すべき目標（案）の一覧

大通・菜園，河南等周辺に経済効果を発揮する昼間人口・交流人口の集積地

- 官公庁等が集積し、観光資源もあることで昼間人口・交流人口が確保され、周辺商業地にシャワー効果を発揮する。

⇒検討時に配慮する指標：地区内の従業員数の確保

盛岡らしい多様な要素を移動しながら体験できるまち→従来の「盛岡らしさ」の強化

- 都市・自然・歴史・横丁などの機能、さらに時代性やスケール感の混交という「盛岡ならではの」を体現する場所として、中津川東岸とともに機能する。

⇒検討時に配慮する指標：地区内を歩く歩行者数の確保

人の多様さが生まれ、新たな価値が創出・発信されるまち→新しい「盛岡らしさ」の創出

- 現在の官公庁、法曹、警察、メディア、金融にくわえ、大学教員や学生、クリエイター、商業者など、立場を超えて交流する場所として機能する。

⇒検討時に配慮する指標：地区内を事業所の分類の多様さ

浸水が想定される中心市街地における避難や業務継続支援の拠点

- 嵩上げや備蓄倉庫を配備することで、中心市街地全体の避難所として機能する。

⇒検討時に配慮する指標：地区内施設での避難受入や備蓄のキャパシティ

（４）（仮称）内丸プランの策定に向けた方向性について

Ⅰ プランの目標

２ 一体的整備のメリット

地区内のメリット及び地区外への波及効果

地区内のメリット(例) 街区全体の価値が向上し、ブランドが醸成される

土地利用・機能導入等がもたらすメリット

- 街区全体で一体感のある都市空間が整備できる。
- 複合化等により土地・容積の有効活用が図られ、公共空間が確保しやすい。
- 公共交通との関連付けや駐車場の集約が可能となり、交通体系も整備できる。
- セットバック等により街路空間も改変でき、歩行環境も充実させることができる。

建物等の性能、ソフト面がもたらすメリット

- エネルギー消費の効率化、IoT導入によるまちのスマート化が検討できる。

整備コスト等の事業性に関するメリット

- 整備手法によって費用や移転による通常業務への負担軽減を図ることが可能になる。

地区外への波及効果(例) 都市全体での再生を促し、まちづくりの機運醸成

- 周辺地域に経済波及効果をもたらす。
- 街区のブランドが都市のブランドとなり、周辺地域に伝播する。
- 市街地における再整備や市民等によるまちづくりの機運を高める。